

Java ナイトセミナーレポート

2007年2月27日に開催された Java ナイトセミナー (vol.3) のレポートです。

主催: (財)インターネット協会 Java 研究部会 / 日本サン・ユーザ・グループ

Java ナイトセミナー (Vol.3)

～Spring Framework 2.0:

デファクトスタンダード DI コンテナの現在と未来～

講演者: zuisener 氏

レポート: 高橋 徹 (IAJapan Java 研究部会 運営委員)



各テーブルにはビールやお菓子も

● はじめに

今月で3回目を迎える Java ナイトセミナー、平日夜の時間帯で開催されるにもかかわらず、満員と盛況です。参加申し込みをされたのに満席のためやむなくお断わりした方々には申し訳ありませんでした。Java ナイトセミナーは毎月開催しておりますので、次回は早めに申し込み頂けると参加できると思います。このレポートを読んで頂いた方にこそお教えすると、参加案内が一番早くでるのは、日本サン・ユーザ・グループの Web サイト (<http://www.nsug.or.jp>) と財団法人インターネット協会の Web サイト (<http://www.iajapan.org>) です。

● 今回のテーマ

さて、夕方 6 時 30 分を迎え、缶ビールやソフトドリンクを手に乾杯の音頭とともにナイトセミナーが始まりました。本日の講演は、zuisener 氏(本人の都合でハンドル名の紹介とさせて頂いております)です。大手 SI 企業で Java 系 Web プログラムの開発に携わっており、「iBATIS 最高と思っていますが、今回のテーマは Spring です。」とのことで、Spring 2.0 の特徴、Seasar2 との比較が本日の議題となっております。



セミナーは乾杯の音頭と共にスタートします

● おやつと飲み物

夜 6 時過ぎより 9 時頃までと本来なら夕食時間帯をはさんでのセミナーとなっているため、机の上にはいろいろおかしも用意されています。机のレイアウトもおかしをお中央に 7、8 人が周りを囲んだ宴会形式で、講師の Java 話しを肴に盛り上がりましょうという仕掛けとなっています。アルコールは缶ビールとボトルのワインが用意されていましたが、アルコールは飲まない人向けにもソフトドリンクが用意されています。

なお、今回の講師の zuisener 氏は自らも缶ビールを飲みながら講演しており、途中で幾度も「飲みが足りませんよ」と会場へ盛り上がりうながす気の配りようで、運営スタッフとしては大変ありがたいと感じ入っております。

● セミナー開始

冒頭、プロジェクトにプレゼンテーション用 PC (MAC) の画面がなかなか表れず、少々四苦八苦することとなってしまいました。何とか画面が出たと思ったら、アプリケーションエラーダイアログが大々的に表示されていました。「見なかったことにして下さい」、zuisener 氏からしばしば連発された今回の名セリフです。会場の雰囲気も一気にやわらかくなってきました。

前置きが長くなりましたが、いよいよ本題に入ります。zuisener 氏より会場へ「Spring 使っている人、手を上げて下さい。Spring 1.2 でもいいですよ。」との質問に、手が上がったのは 15 人位、参加者は約 50 人近くなので Spring 使用経験者は 3 分の 1 弱でしょうか。zuisener 氏は Spring の猛者の集りを予想していたようですが、どうやら今宵は『ちょっと Spring なる巷で有名なフレームワークを酒のついでに聞いてみようか』という雰囲気のようなです。Java ナイトセミナー自体はそんな雰囲気、敷居はととても低いセミナーです。(参加費の千円が最大の敷居かも…)

Spring といえば DI コンテナ (DI: Dependency Injection) ですが、そこで zuisener 氏から「DI を説明できる人？」と会場へ質問があり、会場からは「new しないことでは？」と積極的に受け答えがあり、いつにも増してインタラクティブな進行となっていました。

また、会場からも質問が積極的に出てきておりました。

Spring は POJO (Plain Old Java Object) ベースのコンテナですが、J2SE 5.0 から導入されたアノテーションを使っているいろいろな指定ができるようになってきました。会場から、「アノテーションを使ったら果して POJO と言えるのでしょうか？」との問いが出され、それに対して zuisener 氏は「POJO とはいえないかも、でも気持ちいいです。」と実践的(絶妙?)な回答が出ていました。

Java ナイトセミナーレポート

2007年2月27日に開催されたJava ナイトセミナー (vol.3) のレポートです。

主催: (財)インターネット協会 Java 研究部会 / 日本サン・ユーザ・グループ

また、zuisener 氏の XML 設定ファイルについてのコメントが印象に残っています。Spring は XML 地獄とも言われるほど設定ファイル (XML 形式) の記述が大変でしたが、Spring 2.0 では設定ファイルがシンプルになったのを評して、「はじめじめした位によくなった」とのコメントです。(でも、はじめじめってあまりうれしいことではなさそうに感じますが…)

アスペクト機能については、AOP (Aspect-Oriented Programming) ツールで有名な AspectJ を統合したことによって、相当に強力となっています。

● DI - Bean のライフサイクル

Spring 2.0 になって、ライフサイクルの種類が以前の singleton、prototype から、新たに request、session、global session が追加され、さらにオリジナルのスコープも作成できるようになりました。また、広いライフサイクルの Bean から狭いライフサイクルの Bean を参照できるようになり、柔軟な開発ができるようになりました。

会場から「Prototype の使い道は？」と質問が上がりましたが、zuisener 氏は「Prototype は使いません。Prototype を使っている人、こっそりメール下さい。次回のセミナーでは Prototype はこう使うと紹介します。」と絶妙(?)な受け答えがありました。

また、会場からは「Web アプリケーションの単体テストで Cactus を使えばいいのでは？」と質問が出ましたが、zuisener 氏から「Cactus 使うくらいならローカルでテストします。実は Cactus の設定で挫折しました。」と本音ベース(?)な回答もありました。確かに Cactus は設定が大変です。ツールの機能の説明だけでなく、現場で実際に使っている機能、使っていない機能が垣間見えて有意義なセミナーです。

今回は途中でデモも行われました。それも、事前に準備したものをただ動かすのではなく、説明してきたことをその場で実際に記述して動かすというものです。

Bean の応用として、自分で作ったオブジェクトを簡単に MBean 対応させ、Java SE 標準ツールの JConsole からその Bean のプロパティを見えるというデモです。Spring 2.0 の場合、ソースコードにアノテーションを記述し、かつ XML の bean タグに記述する必要があります。zuisener 氏はささっと設定を記述し、デモを動かして見せてくれました。

● DI - XML ファイル

Spring 2.0 では設定ファイルの XML スキーマが DTD から XML Schema に変更されました。タグの名前も具体的で使いやすく改良されています。

ユーザー側でスキーマ定義を記述すれば、オリジナルな設定記法を追加できるので、フレームワーク拡張やプロジェクトの Bean 定義を簡単にするといった応用が考えられます。

● AOP

プログラマーの「脳力」を使うが、関心事を分けることによって一つのこと集中できます。ただし、使い方に注意が必要です。AOP を外したらおかしくなってしまう、ということは避けなければなりません。

Spring 2.0 では AspectJ を統合して強力な AOP が使えるようになりました。

会場から「どんな用途に AOP を使っていますか？」と質問が上がリ、zuisener 氏は「トランザクションに使うのが一番便利です」と回答しておりました。また、AspectJ の記法にも言及があり、従来の AspectJ の記述、アノテーションで記述、XML で記述、と Aspect のかけかたが増えていきます。また、バイトコードを変える(従来の AspectJ 的方法)と、Spring が動的に変更する方法があります。zuisener 氏によれば「Spring では後者が一般的のようです。」とのことでした。

● 動的言語対応

Java で Bean のインタフェースを書き、Bean の実装を動的言語で記述することができます。会場からは、「動的言語なのにインタフェースを規定するのは動的言語ではないのでは」との意見もあがり、スクリプト言語に代表される動的言語と Java や C++ などの静的言語との比較議論で会場が盛り上がりおりました。参加者の皆さんも酒も回って積極的になってきた頃合いです。

さて、ここで zuisener 氏が JRuby を使って Bean の実装を行いデモを動かすことにチャレンジしていました。残念ながら今回講演中にはエラーが取りきれず、断念することになりました。zuisener 氏からは、「見なかったことにして下さい。」でデモが閉められました。

● Spring Experience 参加報告

Spring 開発者が集まるセミナーですが、日本からの参加者は zuisener 氏とほか僅かであったそうです。

日本からの参加者、となると、Ruby について聞かれるそうです。日本人エンジニアはこれから海外に出るときは Ruby について知っているとういようです。

● Spring v.s. Seasar

Spring は、オブジェクトをシンプルにすることにフォーカスしており、「ソフトウェア工学的」な要素が強いそうです。Spring はクライアント・アプリケーションも対象としています。

Seasar は、開発者を楽にする「現場主義」な要素が強く、どちらかというサーバー向けです。

という両者の方向性の違いをうまく整理して聞くことができ、なるほど、と両者の違いにうなずきました。



今回の zuisener 氏による講演も盛況のうちに終わりました